2026年度第2回一宮市子ども読書活動推進懇話会会議録

1　開催日時　　2026年9月11日（金）午前9時55分～11時26分
2　開催場所　　中央図書館　6階　多目的室1
3　出席者　　懇話会委員：8名　事務局：7名
4　欠席者　　懇話会委員：2名
5　議　題
（1）一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
（2）一宮市子ども読書活動推進計画（第5次）（案）について
（3）その他
6　開　会　（事務局が開会を宣言）
「子ども読書のまち宣言」唱和（先導は副会長）
館長挨拶
会長挨拶
7　会　議　（要旨）
（事務局）　議題(1)について、第1回懇話会で委員から出された質問に対する回答を報告。「児童生徒1人当たりの1か月間の読書冊数と児童生徒1か月間の不読率について、進捗状況および目標値（第4次）では施策コード「4212」となっているが、取り組み状況では、施策コード「4212」は「家庭や地域と連携して取り組む読書活動の奨励」で施策名「○PTAによる読書活動の推進」となっているため、整合性がとれていない」という件について、取り組み状況の施策コード「4213」のところに「○学校における読書週間」という項目を追加して、6月の1か月間の読書冊数と不読率を掲載する方向で学校教育課と相談している。

2026年度の児童生徒1人当たりの1か月間の読書冊数は小学校低学年で23.0冊、小学校高学年で14.4冊、中学校で4.4冊、2025年度と比較すると、小学校高学年で読書冊数は若干上昇しているが、小学校低学年と中学校の読書冊数は、減少している。また、2026年度の児童生徒1か月の不読率は、小学校は0.6%、中学校は8.5%で、2025年度と比較すると、不読率は若干上昇している。

2023年度の児童生徒1か月の不読率が、小学生が0.0%、中学校が0.1%と非常に低いが、何か理由があれば知りたいという質問について、学校教育課に確認したところ、2023年度はコロナ禍の影響を受け、外遊び等に制限があった名残もあり、個人で取り組むことができる読書の時間を多くとる学校が多かったからとのこと。現在は、朝の活動時間も授業時間数としてカウントする場合が多く、読書活動のみに時間を使えていないという現状がある。

（事務局）　議題(2)について、現段階の子ども読書活動推進計画（第5次）案について説明。

（会　長）　この計画の正式名称は、「一宮市子ども読書活動推進計画（第5次）」だが、計画の中の文言が「推進計画（第5次）」という表現のところもあれば、「第5次推進計画」という表現のところもある。随所に正式名称を使ったり、「第5次推進計画」、前回の「第4次推進計画」となったりしている。前回も「推進計画（第4次）」というのが、正しい表現かと思うが、その辺のところで、少し違和感を覚える。タイトルで「第5次一宮市子ども読書活動推進計画」ではいけないのか。

（事務局）　第2次以降、全部後ろに括弧で表記している。

（会　長）　最初の時は、（第１次）というのはない。

（事務局）　第１次はなくて、２次以降は、後ろに括弧で表記している。

（会　長）　何回もこの子ども読書活動推進計画というのが出てくるから、タイトルはこれが正式であれば、「推進計画（第５次）」だけども、例えば文章の中は、「第５次推進計画」に統一する形でいいのではと思う。

（会　長）　第５次の目標値の中で、数値の目標が低いものや逆に高すぎるものもある。

（事務局）　目標値については各関係課に確認をしている。

（会　長）　第４次で目標値を達成しているものを削除してもいいのではと思うが、そのあたりはどうか。例えばブックスタートは100％という数字が並んでいて、たまたま健診の時に来ないことがあって、その後も渡せず、100％を切ったというような話があったが、これは基本的には常に100ではないか。

（事務局）　100％をキープするというのも目標の一つと考えている。

（会　長）　新しい目標値に入った市図書館の役割のところの「子ども読書の日の記念行事の参加人数」だが、2025年度が697人で、今年度は何人だったか。もう４月に終わっているから、数値は出ていると思うが。

（事務局）　前回の資料「取組状況」に26年度の数値が入っている。697人を下回る。どうしても子ども読書の日記念行事は、４月末からゴールデンウイーク頃にやるので、天候にもかなり影響されるところがあるのと、祝日がどれだけ続くかによって、中央図書館だと大体4～5日間で、その年のカレンダーによって、開催日数が変わってくる。一応目標は700人と設定したが、達成できない年も出てくる可能性はあると思っている。

（会　長）　先ほど追加で入れると言っていた子どもたちの意見、計画への反映というのは、子ども司書講座の受講生やボランティアの０ページの子から当然意見が出ると思うが、意見によって、この計画が変わってくるようなところが出てくる可能性はあるか。

（事務局）　子ども・若者からの意見の計画への反映の部分は、「一宮市こども総合計画」という、2025年３月に策定された計画書を参考に作成する。似たような意見を取りまとめて、それに対して、６ページの計画の体系図にある、基本方針と施策のどこの部分にその意見が該当するのかというようなことを仕分けるイメージで考えている。意見が出た事によって大きく変わるのではなく、子どもたちの意見は、この計画の中のどの施策の部分に位置づけ、第５次の期間にやっていくのかということが分かるようなページを作りたいと考えている。

（会　長）　できれば、そういう子どもさんたちの意見を聞いて計画に反映するというスタンスで、私たちの意見がここに載っていると少しでも感じてもらえると、子どもたちも励みになると思うので、そういった子たちの意見を聞いてください。

（委　員）　この０ページというのは、図書館の管轄の人たちなのか、それとも独立したボランティアグループみたいなものなのか。

（事務局）　子ども司書講座を受講した人たちが集まってできた図書館の利用団体であり、ボランティアグループである。子ども司書講座も今年度11年目になり、最初の子ども司書は６年生の子たちだったので、もう大学卒業するかどうかという年齢になっている。

（委　員）　１ページの真ん中あたりで、赤字の後の「2025年度に子供読書活動」の「供」が

漢字で、ほかはみんな平仮名になっている。ここだけ漢字なのはなぜなのか。

（事務局）　県の計画では、「供」が漢字になっている。

（会　長）　愛知県は「第四次」も漢数字になっている。これは、正式な名称を載せているということになる。

（委　員）　先ほどの第5次推進計画と括弧第5次という話で、正式名称だったらかぎ括弧をつけて表記して、そうでなかったら第5次推進計画と、かぎ括弧をつけるかつけないかで区別すれば、分かるのではと思う。

（事務局）　正式名称のところは、かぎ括弧をつけて、正式名称を略しているところはかぎ括弧を付けずに表記するよう、改めて修正する。

（委　員）　5ページの2－1の中ほどの、一宮市子ども読書活動推進シンボルマークというのは「よむりん」のことか。括弧をつけて「よむりん」と書くのはどうか。シンボルマークがこのページにも載っていない。

（会　長）　表紙には載っているが、「よむりん」の紹介がない。

（事務局）　30ページにシンボルマーク「よむりん」が載っている。

（事務局）　シンボルマークができたのが2007年10月、「よむりん」と名前がついたのは2009年である。例えばこの「シンボルマークを作成しました」のところに、「30ページ参照」といった形で表記するのはどうか。

（会　長）　5ページの子ども読書のまち宣言とシンボルマークのところに、それぞれ30ページ参照という表現を入れたほうがいい。先にシンボルマークができて、あとから愛称を募集して決定したということですね。

（委　員）　すごくいろいろ変わってきてしまうかもしれないが、この30ページに書いてあることは結構分かりやすく、かつ重要な気がする。もっと前のページに持ってくることができないか。極端なことを言うと目次の前とか。いつも会議で唱和してから始めるが、ページが結構後ろにある。市議会の議決を経てとか、いろんな公募をしてということが書かれてあるが、後ろのほうだとあまり見てもらえない気もする。結構、大事なページのように思えてきたので、どうなのかと思う。

（委　員）　確かに、ページなしで1番最初にあってもいい。

（委　員）　後ろのほうだと埋もれてしまい、見ない人もいたりする。このページそのものにいろんな色が使われていて、「よむりん」も紹介されているのに、「よむりん」の説明を見るためにこの後ろまで飛ばないといけないのであれば、もう表紙の裏につけて、これが「よむりん」だと分かったほうがいいと思う。

（事務局）　今の30ページを表紙の裏にして、市長の挨拶はその右側のページに、目次を以降のページにします。

(委　員)　27ページの保育園・幼稚園等の役割で、絵本の貸出率が公立保育園だけになっている。では、ほかの園はいいのかと。やっぱり一宮市の子どもたちを平等に扱って、同じように推進していかないといけないのではという思いがずっとある。でも、実際、18ページのほうにもあるが、保育園が68園、公立が51、私立が17、幼稚園が20、認定こども園5園、幼稚園から乳児も扱う認定こども園という形ができて、幼稚園から移行したり、地域型保育事業所ができたりとすごく変わってきている。幼稚園は学校教育課の管轄だったこともあったが、やっぱり子どもという対象として保育課の管轄になり、一緒になって初めて、いろんな研修、危機管理にしろ、こういう絵本の研修にしろ、公立保育園だけでやるのではなく私立保育園や幼稚園にも

案内文を出して、やっぱり一線、横並びで、同じ子どもを扱っているところだから、みんな同じにしたほうがいいのではという動きがだんだん出てきていると思う。絵本の貸出は、ほかは多分やっていない。だから、公立保育園だけで調べてきた。「保育園・幼稚園等の役割」となっているのに、ここだけが公立保育園となっていることにすごく違和感がある。絵本の貸出率という項目を数値として表すのは、公立保育園以外のことを考えると難しいと思う。全部ひっくるめてトータルとして何か推進できることと思うと、保育士側に対しての、絵本の大切さとか読み聞かせの研修を開催して先生たちの資質を上げて子どもたちに反映するという目標ならば、この研修は多分、みんなに知らせてあり、公立だけということはないと思うので、先生たちに研修を受けていただき、研修の参加人数をどんどん増やしていって先生たちの質を上げるというのも読書の啓発活動の一つになるのではと思う。

（会　長）　貸出率よりもそういう研修、いわゆる意識の向上のための研修参加者を目標値にしたほうがいい。公立以外の数も含めて、何かそういう目標値を出そうと思うと、この研修の参加人数がいいのでは。一度保育課に、今の貸出率よりも、研修の参加者を目標値に変えたらどうかという意見が出たとお話をお願いします。

（会　長）　それでは意見も出尽くしたようですので、議題 2 はここで閉じます。議題 2 で出た意見について、また次回、ご報告頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは議題 3 その他について事務局からご説明をお願いします。

(事務局)　次回の第 3 回子ども読書活動推進懇話会は、10 月 14 日水曜日に開催いたします。本日皆様から頂きましたご意見をもとに修正をさせていただき、子どもの意見のページを完成させた最終案を、委員の皆様に見ていただく予定にしております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして本日の会議を終了します。